

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団  
 理事長 住 野 勇 殿

2011 年度「市民公開講座開催への助成」完了報告書

テーマ	<b>【市民講座のタイトルを下記に記載して下さい】</b> 第 12 回十和田緩和ケアセミナー 講演 1 「在宅で看取りをした家族の立場から」 講演 2 「住み慣れた街で、最期まで安心して暮らすために」
-----	--

標記について完了いたしましたので、以下の関係書類を添えて報告いたします。

- 1 報告書原稿（プログラム、出演者レジュメ、当日配布資料、申請者の感想など）
- 2 CD-ROM等（報告書原稿データ、プログラム、出演者レジュメ、当日配布資料など）
- 3 助成金出納帳及び領収書（原本）
- 4 アンケート用紙（未提出の場合）

以上

年 月 日

申 請 者	ふりがな	あ ら や あ き こ		
	氏名	新 谷 明 子	助成金額	30 万 円
	所属機関	十和田市立中央病院	職名	が ん 相 談 員
	所在地	〒 034-0091 青森県十和田市西 12 番町 14-8 十和田市立中央病院 [TEL ] (0176) 23-5121 内線 3145		

(注) このページのも必ず自署にてご記入願います。

報告書原稿 1

テーマ

第 12 回 十和田緩和ケアセミナー

講演 1 「在宅で看取りをした家族の立場から」

がん患者と家族の会 くつろぎサロン会員 中野渡 昭子さん

講演 2 「住み慣れた街で、最期まで安心して暮らすために～かあさんの家の実践から～」

NPO法人ホームホスピス宮崎理事長 市原 美穂さん

申請者氏名 新谷 明子

所属機関 十和田市立中央病院

職名 がん相談員

所属機関所在地 青森県十和田市西 12 番町 14-8

提出年月日 平成 11 月 25 日

- ・ 市民講座開催スケジュール（プログラム） 同封チラシ参照

- ・ 発表者レジュメ 2人とも特になし

- ・ ただし発表内容概要下記に示します

1) テーマ「在宅で看取りをした家族の立場から」

がん患者・家族の会 くつろぎサロン会員 中野渡 昭子  
十和田市在住 68歳 夫との2人暮らし（子ども4人は別所帯）  
好きな言葉 “すべてのことに感謝する”

夫の胃がんが見つかったのは2007年秋の健康診断を受けたときでした。かなり進んでいて、即入院・手術と言われました。10月30日に三沢市立三沢病院で手術を受けましたが2008年の10月22日に自宅で亡くなりました。70年の生涯でした。夫は29年間県立高校の英語の教諭を務めました。スポーツ万能で、学生時代は野球、勤めてからはサッカー、その後格闘技を始め、少林寺拳法・空手道を経て最後は合気道で終わりました。最後の名刺の肩書きは「北日本パプテスト聖書宣教教会代表牧師」と「神学博士」の二つでした。お医者さんの知人、友人が幾人もいて家族ぐるみのお付き合いをした方達もいたのですが、本人は病院も医者も嫌い、看護師も薬も注射も大嫌いという人で歯科医以外は保険証を持って治療に行くということはたえてありませんでした。手術後も自分のベットで安静にしていることは殆んどなかったようです。

2008年8月十和田市立中央病院に症状緩和コントロール目的で6日間入院し、その後最後まで蘆野院長のご指導と訪問診療にて過ごしました。最後の日まで意識はしっかりしており家の主としての存在感は十分で、自己主張もはっきりしていました。結婚以来、私の前で食べたことのないものを食べ、飲みたいものを飲み、行きたいところに行きました。意思の確認が取れない日は一日もなく寝たきりで何も出来ないという日はほんの数日でした。自宅の庭の樹木や芝生の緑を眺めて喜んだその日に逝くとは、わたしも予想がつきませんでした。そんなにも突然にあっけ無く去りました。それでよかったのだと思います。床についても家の隅々まで心を配っていました。在宅での介護は私たち二人にとって充実した日々であり、また新しい発見の連続でもあり貴重な時間となりました。振り返れば在宅での看取りに対しての不安は医師はじめケアマネージャー、訪問看護師、ヘルパー、友人らの周りのサポートが十分であったことでほとんど感じることなくでき、また十和田のこの地域でのシステムが良かったのではないかと改めて思います。

2) 「「住み慣れた街で、最期まで安心して暮らすために～かあさんの家の実践から～」

NPO法人ホームホスピス宮崎理事長

市原 美穂

\* 講演レジェメなしのためHPからの抜粋

ホスピスの原点は、死に直面している患者さんやその家族に対する温かいもてなしの心。そんなホスピスの心が宮崎の地に広く浸透し、市民が安心して最期まで生きていける環境を整えることを、ホームホスピス宮崎は目指している。病に冒され、自ら死期を知ったとき、自分が生きてきた場所で、家族に囲まれ、家族や友人あるいは自分との和解を遂げていく、この時間こそがかけがえのないものです。その時間を過ごす場所として家“ホーム”こそが最もふさわしいと考えている。“ホーム”とはその人にとって安らぎを感じることが出来るところで、自宅であったり、あるいは施設であったりするかもしれません。

「家がいいなあと思いつつも、介護者がいない一人暮らしで帰れない人などがいます。いまは家か施設かの選択肢しかありませんが、自宅ではないけれども、家に限りなく近い『もうひとつの家』をつくりたかった。昼間だけの利用または夜間だけの利用、短期入所、望めば終末期を過ごすことも出来て、家族とともに最期まで見守るのが特徴。入院治療が必要となった場合は、かかりつけ医と相談しながら、後方支援病院と連携して入院し、治療が終わったら再び入居することが出来るという施設。ヘルパーなどの専門職が常駐し、ボランティアや地域の方々の支援を受けて運営されます。母さんの家、この名称にした理由は、「母は命の源であり、母の懐は依存を認め許す、受容するなどの意味合いがある。人生の総括する時期に、まわりに迷惑をかけたくない・・・と窮屈に我慢して暮らすより、お互いに助け合い、いい意味で迷惑を少しずつかけあって、住み慣れた地域で最期まで安心して暮らしていける宮崎のまちになればいいなあ・・・」そして医療専門家のバックアップと、生活感あふれる、そこにいるだけでくつろげることが出来るというのが、ホームホスピスの形であり、何んでもない普通の暮らしの中に、ホスピスの神髄があり人と人の距離や息遣いを大切にしたいホーム、その運営を大切にしていきたい。

[母さんの家の実態]

- ・ 宮崎市内に3箇所
- ・ 建物は建てず民家3軒借り上げ
- ・ スタッフは全体で20人
- ・ 連携先：開業医、病院、訪問看護ステーション
  - ：調剤薬局
  - ：訪問入浴、福祉用具事業所、デイサービス事業所
- ・ 他に音楽療法士、アロママッサーセラピスト、ボランティアなど

10月29日第12回十和田緩和セミナーが十和田市立中央病院2階講堂で開催され、在宅で看取りをした家族の立場から、がん患者と家族の会の中野渡昭子さんが胃がんで亡くなられたご主人を自宅で看取られた際のお話をされました。その内容は病院嫌いだったご主人が病名告知を受けてからの闘病の様子や、ご本人が在宅を希望されいろいろな人に支えられながらご自宅で過ごされた様子をそのときの心情などを織り交ぜて詳細にお話してくださいました。お話を聞きながら在宅介護・在宅での看取りがとても身近なものに感じ、ほんの些細な生活の営みも大切に支えてくれるものなのだなど改めて気付かされました。また、昭子さんご自身もご主人が発病する前に悪性疾患での闘病歴があり、そのときに神父であったご主人が自分の命をかけて妻を助けてほしいと毎日祈りを捧げたというエピソードに胸がつまる思いでした。そして最後に昭子さんはご主人が自宅で最期まで過ごしたいというお気持ちを大切に、限られた時間をご家族やそれを支えるスタッフ達と力の限り過ごせたことに感謝の気持ちを述べておられました。

セミナー終了後に昭子さんは、この10月でご主人が亡くなってからちょうど3年が過ぎ、このセミナーで話せたことがまたひとつ気持ちの区切りになりましたと笑顔を浮かべておられたのが印象的でした。

緩和ケアセミナー全体に対しての感想としては、約70名の参加者は市内のみならず他町村からもあったこと、内容としての在宅介護や看取りケアは他人事ではなく身近なものとして必要とされてきているが、ホームホスピスとして支援する場所・人材等に期待したいが、なかなか現状では各地域で意識化・システム化されていないことなど、不安が大きいことや行政に対しても整備して欲しいなど意見も聞かれ関心の高さが伺われたことや其々の課題があることも明確になったのではと思う。

「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による」

# 第12回 十和田緩和ケアセミナー

がん患者と家族の会 くつろぎサロン  
十和田緩和ケアセミナー実行委員会 共催

講演  
1

「在宅で看取りをした家族の立場から」

がん患者と家族の会 会員 中野渡 昭子 さん

講演  
2

「住み慣れた街で、最後まで安心して暮らすために  
～かあさんの家の実践から～」

講師：市原 美穂 さん / 特定非営利活動法人 ホームホスピス宮崎 理事長

- 宮崎県で「かあさんの家」を運営。地域で本人・家族が望む看取りをされています。

開催日時

平成23年10月29日 土 13:00～開場

開催場所

十和田市立中央病院 / 別館2階 講堂

募集人員

約120名 (参加費 無料)

本セミナーは公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けて開催しております

# 第12回 十和田緩和セミナーのご案内

一般病棟および在宅での緩和ケアの普及を目的に、当院では定期的にセミナー(勉強会)を開催しておりますが、今回は、医療や介護福祉の専門職だけでなく一般住民を対象とした講演会を企画しました。

内容は実際に自宅で看取りをされた方のご家族の体験談と、「かあさんの家」として全国的に話題となっている、本人・家族が望む看取りを地域で支えている方の貴重なお話です。是非興味のある方はお越しください。参加資格は特になく誰でも参加できます。

## プログラム

10月29日(土) 受付13:00から

13:30~13:50 講演1 「在宅で看取りをした家族の立場から」

がん患者と家族の会 会員 中野渡 昭子 さん

13:50~14:00 休憩

14:00~15:45 講演2 「住み慣れた街で、最後まで安心して暮らすために  
~かあさんの家の実践から~」

講師 市原 美穂 さん

(特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎 理事長)

- 宮崎県で「かあさんの家」を運営。  
地域で本人・家族が望む看取りをされています。

## MAP <別館1階入口よりお入りください>



## 参加申し込み方法

下の申し込み欄に記入していただきFAXしていただくか、お電話にてお申し込みください。

- 電話での申し込み先  
十和田市立中央病院  
平日：午前9時~午後3時  
TEL 0176-23-5121
- FAXでのお申し込み  
FAX 0176-23-2999

- 代表者氏名と参加人数を記入いただき本状をFAXしてください ●

**FAX 0176-23-2999**

様

参加人数

人